

韓国ソウル市「清溪川復元事業」について

～ 復元事業の概要と現地視察報告 ～



ライトアップされた清溪川で涼むソウル市民 (2006.7.26 夜撮影)

2006年7月

はじめに

2006年7月26日～28日までの3日間、韓国の首都ソウルにおいて、都市河川再生事業により蘇った「清溪川(チョンゲチョン)」を見学する機会を得た。折しも滞在期間中にソウル市を記録的な豪雨が襲い、美しい水辺空間としての清溪川、そして荒れ狂う水路としての清溪川の両面を見ることができたことも貴重な経験であった。

大都市における公共事業を取り巻く利害関係や市民の声を適正に分析・管理し、合意形成を経て為しえた大事業から得られる教訓は決して少なくない。大都市再生事業の成功事例として国際的にも評価されつつあるプロジェクトだが、ソウル市民の本音は果たしてどんなものか？

再生事業に対する市民の本音を探るべく、韓国の友人達の率直な意見も一部紹介しつつ、都市河川再生事業の概要と、現地での視察結果を紹介したい。

資料の構成は以下の通り。

- 清溪川再生事業の概要
- 清溪川視察報告
- 地元ソウル市民の声
- 清溪川に関する参考図書とホームページ

【1】 清溪川再生事業の概要

清溪川とその歴史

清溪川(チョンゲチョン)は、流域面積約 50km²のソウル市中心街を流れる都市河川で、14 世紀後半にソウルが朝鮮王朝の都となって以来、600 年に渡りソウル都城の中心を流れてきた。

第二次世界大戦前後には、川辺における衛生問題が深刻化し、幾度となく川を覆蓋するという計画が立てられたものの、不安定な情勢を理由に長い間放置され続けてきた。しかし、1950 年代から 1960 年代の韓国の経済成長・都市開発に伴って水質汚濁が更に深刻化したことを受け、覆蓋による河川の暗渠化、またその上に清溪川高架道路が建築され、それ以来、清溪川はソウル市民の目に触れることのない存在となった。

2000 年代に入ると、清溪川高架道路が築 30 年を経て老朽化が目立ち、補強工事や通行が規制が繰り返されるようになり、それに併せ清溪川復元の声が高まり出した。これを受け、高架道路を撤去し清溪川の復元を公約に掲げたイ・ミョンバク市長が 2002 年の市長選挙で当選。その翌年から事業が早速具体化することとなり、2003 年 7 月～2005 年 9 月までの 2 年 2 ヶ月間をかけた大規模都市再生事業が着手された。

現在は工事も完了し、ソウル 600 年の歴史回復の象徴として町の中心に清流が復元し、21 世紀文化環境都市として北東アジアの中心都市を目指しながら、環境と調和した河川周辺の都市開発が更に進められている。

清溪川再生事業の主な特徴

再生事業の二大特徴は次の通り。

(1) 高速道路の撤去、及び周辺地域の開発

- ・暗渠化した上の平面道路とその上を走る高速道路を完全に撤去。
(工事前の平面道路交通量：66,000 台/日 高速道路交通量：103,000 台/日)
- ・清溪川の両側に片側 2 車線の道路を整備し、周辺商店街の活性化を図る。

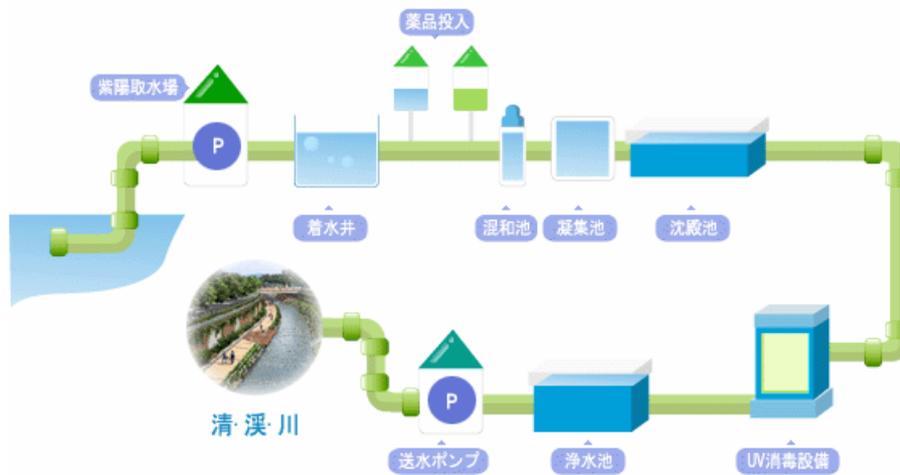
(2) 清溪川の復元

- ・ 河川を覆っていた蓋を撤去し、地下河川を復元。
- ・ 洪水対策として従来より 2m 以上水深を掘り下げ、川幅も 10～30m に拡幅。
- ・ 川沿いには親水空間として散策路や休憩スペースを設け、また 22 の橋梁を整備。
- ・ 良好な水質を確保するため、漢江(ハンガン)から引いた水を浄水処理した水、及び地下水を流す。



写真(ソウル市ホームページより引用)

<http://japanese.metro.seoul.kr/chungaehome/seoul/main.htm>



清溪川を流れる水の水処理過程(漢江+地下水 清溪川へ)

図(ソウル市ホームページより引用)

<http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>

数字で見る事業概要

事業主体

ソウル市

事業区間

約 5.8km

総工費

約 470 億円 (概算)・・・1m 当り約 800 万円に相当

工期

2003 年 7 月～2005 年 9 月

再生事業の効果

ソウル市が本プロジェクトに期待する効果を、ソウル市ホームページよりそのまま引用しておく。

■ 都市形の自然河川の復元により、水辺文化空間が造成され、都市の姿が大きく変貌

- 清溪川に散歩に出かけた市民とサラリーマンたちは景色を見ながらくつろぎ、周辺の商店街などでショッピングも楽しむことができる。また、水遊びができる子供向けの都市形の自然河川へと復元。
- ソウルの歴史文化遺跡(古宮)と鍾路、東大門ファッション・ショッピング・センター、乙支路をつなぐ新たな観光資源を創出。

■ 清溪川そのものが歴史的な文化遺跡

- 600 年前の歴史的な文化遺跡の?元と、石造文化財(清溪川の橋)の復元。
- 水辺文化ストリートをつくりあげることで古宮、東大門、その他の都心と連係した文化空間を形成。

■ ソウルが環境にやさしい町に生まれ変わる

- 清溪川の復元により、都心に進入する車が外回りの道路を利用することになり、都心の大気汚染減少に大いに役立つ。
- 車の排気ガスが清溪高架および清溪川などに停滞する現象を解消。
- 巨大な下水道が、都市形の自然河川に生まれ変わり、市民に憩いの場を提供。

■ 都心経済・江北(カンブク)経済が活性化する

- 清溪川復元により、周辺地域の環境が改善され、それに伴い、自然に産業構造も変わる。
- 国際金融、文化産業、ファッション、観光産業などのマーケティングスペースとして利用されることで、新たな経済中心地としての役割を果たすきっかけとなる。

表 (ソウル市ホームページより引用)

http://japanese.metro.seoul.kr/chungaehome/seoul/sub_html/2sub_02.htm

【2】 清溪川視察報告

はじめに、同じ場所（清溪川のスタート地点）にて撮影した以下の三枚を紹介したい。



ソウル市民で溢れる川（2006.7.26 夜撮影）



大洪水の清溪川（2006.7.27 昼撮影）



水が引き、清掃作業中の清溪川（2006.7.28 撮影）

三日間という短い滞在期間中に、清溪川の様々な顔を見れたことは実に幸運であった。

初日夜には、川べりを散策したり水に足をつける人、またギターを弾く人等々、水に親しむソウル市民で溢れていた川が、一夜にして都市排水路に。しかし、その翌日には、まるで川を綺麗に清掃して去ったかのように水が引き、ソウル市職員により清掃と安全チェックが行われていた。

河川としての機能を十分発揮する立派な構造に加え、河川管理者による徹底した安全管理があってはじめて、市民が安心できる都市環境が新たに創造されることを実感した三日間であった。

韓国の国家プロジェクトにも位置づけられる清溪川復元事業の見所について、以下に順に紹介する。（参照 web: ソウル市清溪川ホームページ <http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>）

清溪川文化館

清溪川の歴史と文化を一目で見られる「清溪川文化館」では、清溪川を介してみつめたソウルの歴史や、河川再生事業の全てを知ることができる。

地下2階・地上4階建ての建物の4階常設展示場から見学スタート。

まずは受付にて日本語の館内パンフレットをもらい、再生事業の位置をジオラマ模型にて把握。



<ソウル市の模型>（2006.7.27 撮影）

清溪川再生事業の始点から終点までが一目で見下ろすことができるジオラマ模型。この事業が首都全体の景観に与えるインパクトの大きさを知る上で非常に役立つ模型。

続いては、韓国戦争前後に清溪川周辺に広がっていたバラック集落の様子を見ることができる。



<昔の清溪川の様子>（2006.7.27 撮影）

模型中央部のスクリーンでは、当時の清溪川の様子や覆蓋の過程を映像で見ることができる。

更に進むと、清溪川復元前の暗渠内地下空間の体験施設へ。



< 清溪川復元前の暗渠内地下空間 >
(2006.7.27 撮影)

音響も実に凝っており、地上空間に高速道路や街路がある状況を再現している。

続いては、復元工事の過程をパネル・映像・模型を通じてみる事ができる。



< 復元工事の過程を示した模型 >
(2006.7.27 撮影)

高速道路の撤去 暗渠を覆う蓋の撤去 撤去資材の搬出 河川の再生 という一連の流れを示した模型。

3 階には清溪川周辺を撮影した大型航空写真が床に敷かれており、子供を対象とした学習施設が備わっている。続いて 2 階では、韓国歴代の王たちに扮装した俳優が清溪川にまつわる歴史的な事実を伝える映像を、また「清溪川ツアー」のコーナーでは復元された清溪川の全区間の映像を見ることができる。

この他、一階にはカフェ・アートショップや企画展示室が設置され、実に見ごたえのある博物館である。次に紹介するバスツアーでも立ち寄るが、じっくりと施設を見学するには、地下鉄に乗ってのんびりと見学することをお勧めしたい。

・観覧時間	午前 9 時～午後 10 時、年中無休
・入場料	無料
・電話番号	(02)2286-3403～6
・アクセス	- 地下鉄 1 号線「祭基(ジェギ)」駅から徒歩 15 分 - 清溪川循環バス(イエローバス 01 番)「清溪川文化館」下車

清溪川バスツアー

所要時間約 1 時間 30 分の清溪川バスツアーが、ソウル市により一日 5 回運営されている。



< 清溪川バスツアー >

(2006.7.27 撮影)

予約不要のバスツアー。ただし、車内放送は韓国語と一部英語のみである。清溪川を左右岸に沿って走り、見所を順にガイドしてくれる。事業対象区間の全てを視察可能。

外国人が中心かと思いきや、ソウル郊外から来た韓国人に大人気であり、国内でも事業の知名度が高いことを知ることができる。

出発場所：東和(ドンファ)免税店前(地下鉄 5 号線「光化門」駅下車、6 番出口)

出発時間：10:00, 12:00, 14:00, 16:30, 19:00 (2006.7.27 時点)

座席数：74 席 (1 階 20 席、2 階 54 席)

運休日：月曜日

運賃：大人 5,000 ウォン、高校生以下 3,000 ウォン

問い合わせ先：ソウルシティツアーバス 電話 (02)777-6090

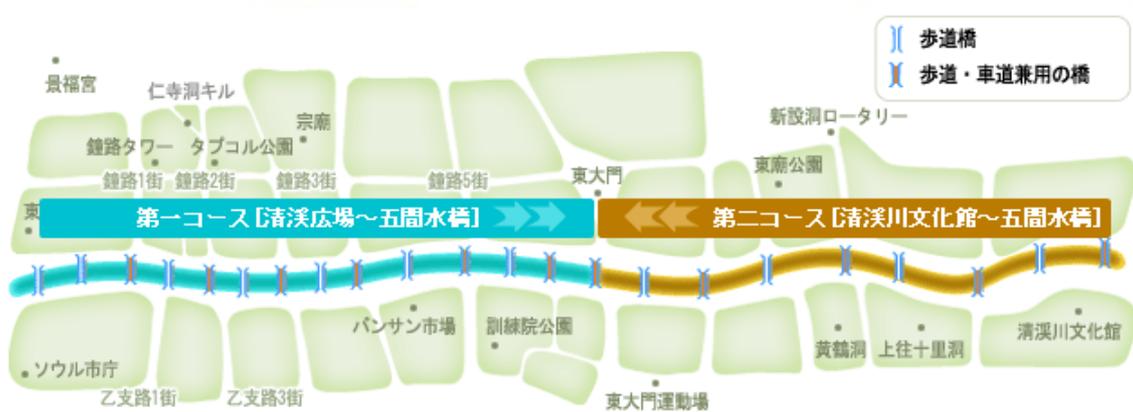
順路：光化門(出発)～徳寿宮～清溪広場～三一橋～パンサン市場～黄鶴橋～清溪川文化館～永渡橋～五間水橋～馬廬橋～光化門

徒歩散策

当初、全区間を踏査する予定であったが、記録的豪雨により今回は断念した。

清溪川沿いには、河道脇に遊歩道、そして道路沿いにも遊歩道が整備され、川縁に沿って散策を楽しむことができる。

また、22 の芸術的な橋梁や、川に配置された彫刻や滝等々、清溪川はさながら「水のミュージアム」のような存在となっている。



出典：ソウル市ホームページ <http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>



< 川沿いの散策路 > (2006.7.28 撮影)

普段は昼夜問わず、ソウル市民で大混雑している遊歩道。この日は、前日の大規模な出水を受け、立ち入りが禁止され、ソウル市職員による安全確認が行われていた。上部の道路から川へのアクセス道路は頻繁な間隔で整備されている。



< 花壇と橋梁 > (2006.7.28 撮影)

大雨のために河道内への立ち入りは禁止されていたが、たくさんの方が納涼気分を楽しんでいた。



< 川沿いの散策路 2 > (2006.7.28 撮影)

夜になると周辺が青や赤の照明でライトアップされ、たくさんの若者が水辺に集まる。川の両サイドのビルの影響も受け、涼しい風が川沿いに流れるのが印象的。

特に興味深いのは、環境に配慮した美しい構造の中に、治水機能がさりげなく組み込まれている点だ。

例えば、都市排水の流入口の一例をいくつか紹介しよう。



< 大規模排水路幹線の合流点 >
(2006.7.28 撮影)

平常時は滝となり、水しぶきの横を散策ができ、少量の都市排水は遊歩道の下より清溪川に合流している。しかし、この滝の部分全てが実は都市排水溝の合流口。洪水時には道路排水が合流する仕組み。



< 開閉式の排水口 > (2006.7.28 撮影)

遊歩道脇の護岸の至る所に、写真のタイプの開閉式排水口が配置されている。普段は景観を損ねず、洪水時のみ治水機能を果たす構造になっている。



<排水口が開き雨水が合流>
(2006.7.27 撮影)

大量の道路排水が合流する様子。

川への容易なアクセス性は、同時に洪水時のリスクとなり得るが、非常時にはソウル市職員が川沿いに配置され、川へのアクセス道路の入口が閉鎖される。



<安全管理の職員> (2006.7.28 撮影)

水路内へ立ち入りが禁止されている場合は、市の職員が等間隔で配置されている。無線を持ち、頻繁に安全の確認をし合っていたのが印象的。

河川工学の展示場とでも言うべき清溪川復元の現場。

まずは文化館にて歴史と事業概要を学び、次にバスツアーにて全体を見た後、じっくりと川沿いを歩いてみるのが一番のお勧めコースと言えよう。

【3】 地元ソウル市民の声

大都市再生事業の成功事例として、国際的にも高く評価されつつある清溪川再生プロジェクト。しかし、地元ソウル市民はこの大事業にどんな印象を抱いているのであろうか？

そこで、韓国で暮らす 5 人の友人に直接会い、川と一緒に見ながらこのプロジェクトに対する本音を聞いてみたので、簡単にその結果を紹介したい。ただし、人数、そして年齢層も限られており、ソウル市民の平均的声とは言えないため、そのレベルの情報として捉えて頂きたい。

友人 5 人のプロフィール：

年齢：20 代後半～30 代前半

居住：全員がソウル市内で生活

職業：全員がソウル市内に勤務先を持つ会社員。

Q 1：清溪川再生事業のことを知っているか？

- ・ もちろん、清溪川再生事業のことは知っている。(5 人/5 人中)
- ・ どこから水を持ってきているか、またこの川の機能については知らない。(5 人/5 人中)

Q 2：清溪川を見に行ったり、川沿いで遊んだ経験はあるか？

- ・ 清溪川を見る目的で遊びに行き、水辺に下りて歩いたことがある。(2 人/5 人中)
- ・ 序に傍を通過して見たことはある。(2 人/5 人中)
- ・ 現場は見たことがない。(1 人/5 人中)

Q 3：清溪川再生事業に対する印象、意見はあるか？

- ・ 建設着手時からしばらくは、生活への悪影響ばかりで自分も家族も反対していた。しかし、完成してみると確かに綺麗であり、今は満足している。
- ・ 自分達の世代よりも、お年寄りが特に喜んでいる印象を持っている。
- ・ 夏の暑い日、川の周辺が涼しいのが気持ちいい。飲み会の後で歩くこともある。
- ・ 政治色が濃く、イメージが悪い。次期大統領の最有力候補であるソウル市長らしいプロジェクトであり、政治のパフォーマンスの成果と捉えている。(2 人/5 人中)

- ・ あまり興味ないので、行ったこともない。
- ・ 何故、外国人に有名なのかが疑問。実際、海外からのお客さんを接待する度に清溪川を連れて行くので、見せる場所ができたことは嬉しい。
- ・ この事業の為に、道路事情が極端に悪くなった。特に東西の移動が不便であり、個人的には不自由している。
- ・ 子供の頃、清溪川周辺地域は、不法な製品が売っていたり、様々な面で汚れている印象があった。ソウルを国際都市にする上で、高速道路のみならず、負の遺産的なものを全て払拭したいという気持ちが多分働いた結果のような気がする。

Q4：この事業を誇りに思うか？

- ・ 誇りに思うほど、日常生活でこのプロジェクトを意識したことがない。(多数)
- ・ お客さんを連れて行くことが多いので、多分誇りに感じているのだろう。

Q5：清溪川文化館には行ったことはあるか？

- ・ 行ったことがある(1人/5人中)
- ・ そんな博物館があることは知らなかったし、行ったこともない。(4人/5人中)

上記は色々な会話の中での一部を紹介したに過ぎないが、公共事業を取り巻く状況として、どの国も似たような問題を抱えている印象を強く受けた。

ただし、まだ完成間もない事業であり、文化館やガイドツアーバスの運行といったソウル市の力の入れようを見るに、今後はソウルの観光名所のひとつとなり、更に世界的注目を浴びていく可能性を秘めている気がする。

【4】 清溪川に関する参考図書とホームページ

清溪川を更に知る上で有用な図書及びURLを以下に紹介する。

事業主体のソウル市ホームページ上にて、日本語をはじめ様々な言語で情報提供が為されていることから、ソウル市の世界に対するアピール度を理解することができる。

書籍

川からの都市再生 ～世界の先進事例から～

<http://wadandy-water.seesaa.net/article/18263585.html>

清溪川復元 ソウル市民葛藤の物語

<http://wadandy-water.seesaa.net/article/16689815.html>

ホームページ

清溪川復元事業（ソウル市）

<http://japanese.seoul.go.kr/chungaehome/seoul/main.htm>

清溪川（ソウル市 Hi Seoul）

<http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>

特集・清溪川復元事業（ソウルナビ）

http://www.seoulnavi.com/area/area_r_list.html?bid=sp002&area=

.....

【作成日】 2006.7.31（月）

【意見送付先】 <http://wadandy-water.seesaa.net/article/21711719.html>